



「五ヶ瀬中学校校歌より」

学 び 舎

五ヶ瀬中学校校長室だより
令和 元年10月30日
No.6
文責：校長 戸敷二郎

生徒達の活躍の記録です！

2学期に入り、スポーツ・文化の各方面で結果を出しています。ここまでの様子をお伝えします！

西臼杵地区中学校秋季体育大会

【男子バレーボール】 2チーム参加で1試合

五ヶ瀬0-2高千穂



【女子バレーボール】 3チーム総当たりリーグ戦

五ヶ瀬1-2田原

五ヶ瀬1-2高千穂



【女子ソフトテニス】

《団体戦》 5チーム総当たりリーグ戦

1位 五ヶ瀬 (4勝0敗)

2位 日之影 (3勝1敗)

3位 高千穂 (2勝2敗) **優勝**~五ヶ瀬中 (県大会)



《個人戦》 予選リーグ→決勝トーナメント

甲斐南沙・甲斐さくらペア~準優勝 (県大会)

太田夢菜・那須木乃芭ペア~第4位 (県大会)

戸高藍実・田中美妃南ペア~ベスト8 (県大会)

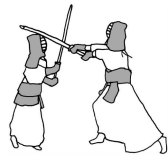
【男女剣道】

《女子団体戦》

1位 高千穂

2位 上野

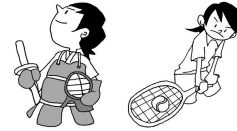
3位 五ヶ瀬 (県大会)



《女子個人戦》

落合柊那~4位 (県大会)

甲斐望晴~5位 (県大会)



《男子個人戦》

甲斐右恭~優勝 (県大会)

藤川秀虎~4位 (県大会)

【軟式野球】

五ヶ瀬6-3高千穂

五ヶ瀬5-1日之影



優勝~五ヶ瀬中 (県大会)

今回の県大会には、卓球競技で平川彰英君、山下雄大君の2人も個人戦で初めての中体連県大会に出場します。

西臼杵地区中学校駅伝競走大会

10月21日に行われた地区駅伝競走大会は、男子が4位、女子が2位でした。

また同時に行われたロードレース大会 (2km) では、女子の部で1位落合柊那さん、2位那須木乃芭さん、3位秋本凜咲さんの五ヶ瀬中1・2・3フィニッシュでした。



西臼杵郡中学校英語暗唱・弁論大会「暗唱の部」優勝

9月30日に高千穂町で開催された『西臼杵郡中学校英語暗唱・弁論大会』で、本校3年生の西川未楽さんが暗唱の部で見事優勝しました！ 西川さんは10月21日開催の県大会に西臼杵郡代表として出場しました。

全国暴力追放運動ポスター・標語募集での入賞

夏休みの宿題として募集した『全国暴力追放運動標語の部』で、本校3年生の菊池拳真君が優秀賞を受賞しました。菊池君の作品は暴力団排除の徹底の部門での入賞です。作品は「恐れずに 手を取り合って、明るい地域」です。

九電みやざき小中学生絵画コンクールでの入賞

こちらも夏休みの宿題として募集した『九電みやざき小中学生絵画コンクール』で3年生の栗山耕輝君が佳作、1年生の佐伯ふみさんが優秀賞に入賞しました。合わせて五ヶ瀬中学校も県内で唯一の中学校として学校賞を受賞しました。10/26(土)の宮日にも掲載されました。

「少年の日」ポスターコンクールでの入賞

『家庭の日・少年の日ポスターコンクール』で1年生の藤川秀虎君が優良賞を受賞しました。県内小中高校生の中で10人の表彰者の中に入りました。

今年もRST

(リディング・スキル・テスト) 12月に実施します!

～教科書が読めていない子供をなくそう!～

今月11日(金曜日)に五ヶ瀬町教育委員会主催の「RS研修会」が町民センターで開催され、町内外から140名を超える参加者による大規模な研修会となりました。(10/18宮日にも掲載)

今年の1月に町内の小学6年生、中学1, 2年生を対象に県内初となるRSTを実施した五ヶ瀬町の取組に対して、大きな関心が寄せられている証でもあると感じました。

RST? 何だったっけ??

という方に、ザックリと復習をすると……。東ロボくんプロジェクト(ロボットは東大に合格するか?)という実験に取り組んだ新井紀子教授が、実験を通して「現代の子供達は教科書が読めていないのではないか?」という疑問に駆られ、作り上げたのがRSTです。

読み取り(読解)の力を6つの分野からチェックするテストで、昨年度受検した児童・生徒には観点別の個別評価票が届いたと思います。6分野7項目は下の表の通りです。

係り受け解析	照応解決具	具体例同定(辞書)・具体例同定(数学)	同義文判定	推論	イメージ同定
主語、述語、修飾語などの関係	指示語や代名詞が何を指すかの	国語辞典の定義と具体例が合致するか読解	2つの文の意味が同じか否	文章の意味を既存の知識で推測	文章と図形の表す内容が一致かどうかの理解
解析	照応	数学的定義と具体例が合致するか読解	かの判定		

同義文判定が低いと「自学自習」ができない!

同義文判定の代表的な下の問題に答えてみてください。簡単です!

次の文の①と②の文章は同じ意味か、そうではないか答えなさい。

- 1635年、ポルトガル人は幕府から追放され、大名は幕府から沿岸の警備を命じられた。
- 1635年、幕府はポルトガル人を追放し、大名から沿岸の警備を命じられた。

出展：東京書籍(株)中学校社会科教科書「新しい社会・歴史」



答えは、当然「違う」ですよね。しかし、100字にも満たないこの短い文章の読み取りができて「違う」と正答した中学生の割合が**57%に留まったというショッキングな現実**が現れました。そんなバカな!と思われるかもしれませんが、この数字は事実です。実際、現役の高校国語の先生が定期テストの後で「先生、どうしてこれは×なのですか?」と聞きに来る生徒が少なからずいるそうです。「意味が違うでしょう。」と言うと「でも(キーワードとなる語は)全部合っています。部分点は出ないんですか?」と食い下がってくるそうです。この事実は何を示しているかということ……

自学自習ができないことを示しています。



つまり、自学自習では教科書や参考書を読んで問題を解き、自分で○付けをした上で間違っている部分を訂正しなければなりません。それがうまくできないこととなります。同義文判定ができないと、自分の答えと模範解答の字面が少しでも違っていると、自分の解答を消しゴムで消して模範解答を丸写ししていくこととなります。**これでは力はつきません。**



先に出てきた「部分点をくれ!」と食い下がる高校生。まったく意味が違うのだから部分点も何もないのですが、「キーワードになる言葉が全部揃っている」ことを理由にしています。実は、新井教授たちが東ロボくんを開発する過程で気付いたのが、この「キーワード読み」=「AI読み」だったそうです。AIロボットもキーになる言葉を手がかりに作業を進めますが、言葉(語)〈1635、幕府、ポルトガル人、追放、大名、沿岸、警備〉だけ並べても意味が分かりません。人はその文の構成や「と」「に」「のとき」「ならば」「だけ」…などの機能語と呼ばれる語を正しく使って(理解して)文の意味を理解しようとするのです。この作業はAIが特に苦手とする分野らしく、新しい大学共通テストでも、AIによる自動採点の導入を断念せざるを得ないところまできているようです。

新井教授は**機能語を正しく使えることが「読める」こと**につながると述べています。本校でもキーワード読みを無くし、**機能語**を正しく理解させながら読ませる指導を徹底させていきたいと思ひます。ぜひ、各ご家庭でも会話の際などに**機能語**を意識していただくとありがたいです。